

ちょうどいい、みつけた。

廿日市市

# まちづくりチャレンジ 応援補助金

## 採択事業事例集



【令和3～6年度実施事業】

令和8年3月

地域振興部 地域振興課

# ～ まえがき ～

## この採択事業事例集について…



制度開始の令和3年度から令和6年度までの4年間で、市内10地区の地域自治組織が多種多様でユニークな11事業に取り組んできました。

各事業の概要や成果など、補助期間終了後の現在の取り組み状況やキーパーソン・地域の声をまとめましたので、これから事業の提案を考えている地域自治組織をはじめ、多様な主体(事業者・学校など)や市民のみなさんに地域のチャレンジを知っていただく一助に、また、新たなチャレンジへの参考やきっかけになりましたら幸いです。

## まちづくりチャレンジ応援補助金とは…

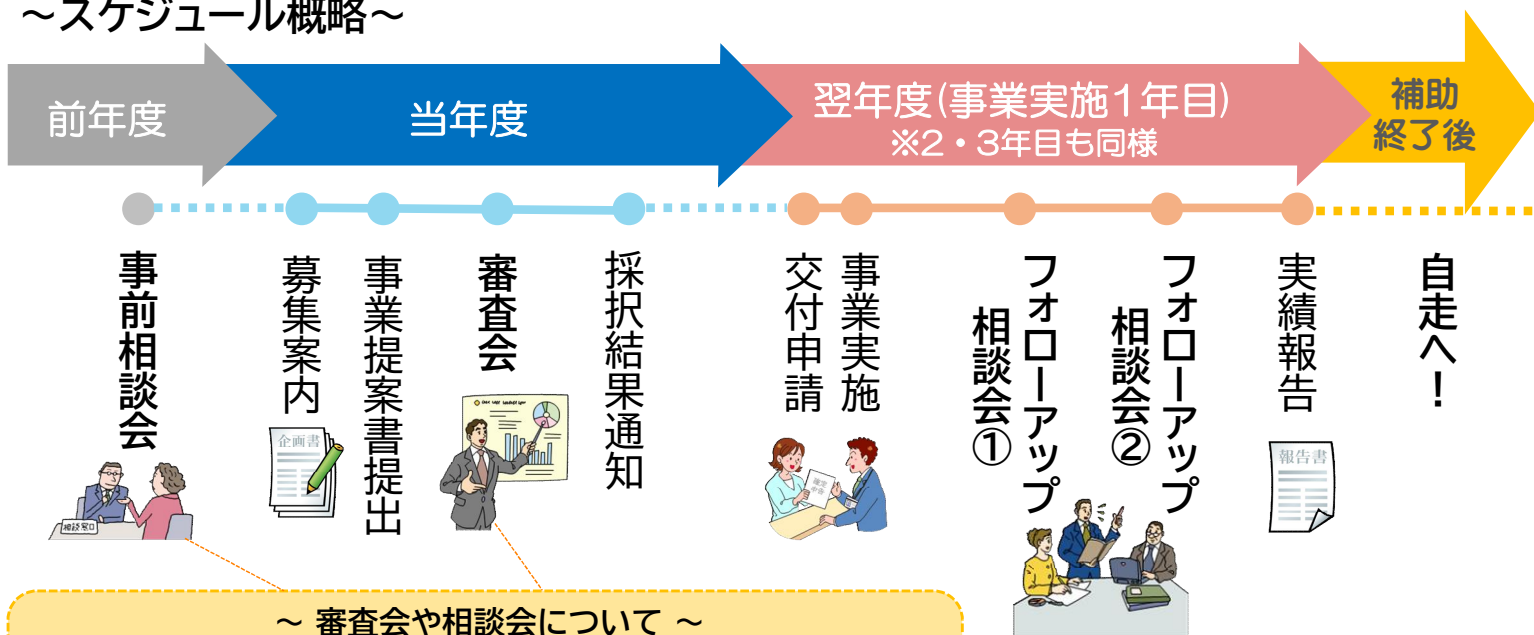


令和3年度から、市内28地区の地域自治組織が取り組む「地域力の持続」や「地域における新たな活力創出」に向けたチャレンジを応援し、団体自らによる”経営視点(人・モノ・資源・情報の最大活用、目標の共有)を取り入れた持続可能なまちづくり”活動に要する経費に対し、予算の範囲内で補助金の交付を行っています。

### 【制度概要】

- 補助対象事業 … 地域課題の解決に向けて、新たに継続的に取り組む事業
- 対象団体 … 市内28地区の地域自治組織
- 補助率上限額 … 事業区分や事業実施年度等によって異なります。

### ～スケジュール概略～



#### ～ 審査会や相談会について ～

外部(大学や地域コンサルタント会社等)の、まちづくりや経営的知見を有する有識者が審査委員(相談員)として、事業に対する的確なアドバイスを行います!

※詳しくは当該年度の募集要項をご確認ください

# 採択事業一覧【令和3～6年度実施事業】

No.	ページ	地域	地区	事業区分	事業	R3	R4	R5	R6
 <b>デジタル化</b>									
①	4	廿日市	佐方	(3)活カづくり	集会所管理体制の整備	●	●	●	-
②	5	廿日市	阿品台	(2)組織・環境づくり	ためまっぷアプリ導入	●	●	●	-
③	6	大野	第9区	(2)組織・環境づくり	デジタル回覧版の導入	●	●	-	-
 <b>交流促進・居場所づくり</b>									
④	7	廿日市	原	(3)活カづくり	どろんこバレー大会開催	●	●	●	-
⑤	8	廿日市	四季が丘	(3)活カづくり	買い物サロン	●	-	-	-
⑥	9	佐伯	玖島	(3)活カづくり	旧玖島小くじマルシェ	-	●	-	-
⑦					旧玖島小カフェ事業等	-	-	●	●
 <b>防災</b>									
⑧	10	廿日市	串戸	(2)組織・環境づくり	防災講座と啓発活動	-	-	●	●
⑨	11	廿日市	阿品	(1)人づくり	防災士養成/防災活動	-	●	●	●
⑩	12	大野	第2区	(1)人づくり	地区別避難体制整備	●	●	●	-
 <b>移動支援</b>									
⑪	13	大野	第1区	(2)組織・環境づくり	楽楽キャブ拡大	●	●	-	-

10地区

11事業

●:補助金交付年度(最長3年)

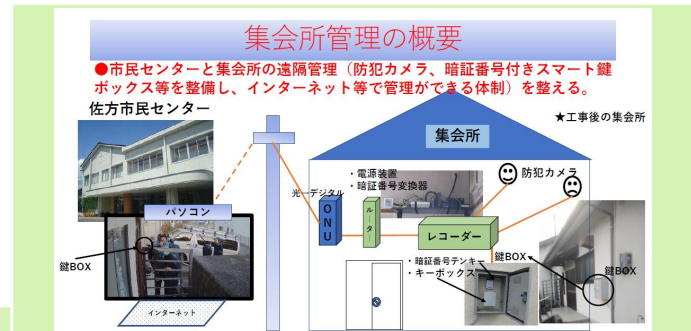
## 事業概要

市民センターを中心にIT機器(Wi-Fi、防犯カメラ、スマート鍵BOX等)を活用し、地域自治組織による複数の集会所の維持管理体制の整備を行いました。

事業の効果  
(工夫した点)

- ◎ 町内会長や集会所管理人の声をヒントに、**IT機器の導入**による効果的効率的な管理体制の整備、継続できる仕組みを構築することができました。
- ◎ **集会所の利用率向上**による地域活性化、一時避難所としての整備による**長期的な安全安心な佐方地区**の浸透を図ることができました。

## 写真・図



補助内容	●R3	●R4	●R5
補助額(千円)	960	600	525
事業費(千円)	1,082	845	733
補助率(※)	10/10	3/4	3/4

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 背景・目的

## ①集会所管理人の負担軽減

予約から鍵の受渡しやお金の管理など、管理人個人の負担が大きく、なり手がいない等の課題に対して、地域自治組織が管理者となることで、**個人の負担を軽減**することを目的としました。

## ②利用者の利便性向上

各集会所の利用手続きの拠点を市民センターとすることで、利用者の利便性の向上を図り、より公平に利用してもらえるようになりました。

## ③住民の安心感向上

集会所を整備することで、近隣住民の一時避難所としても活用できるようにしました。

課題  
(苦労した点)

佐方地区の町内会住民が気軽にかつ優先という考えに対して、インターネットによる予約システムの公開・利用方法について検討に時間がかかりましたが、わかりやすいウェブシステムを構築することができました。

現在の  
取組状況  
(今後の動き)

令和3年度から5年経過した現在まで、佐方地区の4カ所の集会所の利用率向上による地域活性化、一時避難所としての整備を図ってきましたが、集会所の立地条件によって活動内容は色々で、当初の目的は達成できましたが、利用(収入)が少ない集会所もあり、**地区全体としての持続的な集会所運営のための改善策**を検討しています。

## この事業のキーパーソン！

佐方アイラブ自治会 総務局長 落合さん

## ひとこと

『システムの構築にあたっては、地域のIT関係が得意な人に協力もしてもらいました。これからも広く地域の方に集会所を利用してもらえるよう周知していきたいと思います。』

## 地域の声

集会所の利用者から

## ひとこと

『予約から鍵の受け渡し、利用料の支払いについて、これまでは管理人さん個人がご自宅にいる時にしかできませんでしたが、市民センターで完結できるので、とても便利になりました。』



## 阿品台コミュニティ

## ためまっぱアプリ導入

## 事業概要

地域情報をスマホやパソコンで閲覧と投稿ができる電子掲示板機能のアプリ「ためまっぱ阿品台」を導入し、住民へのコミュニティ活動情報の発信・PRを行いました。

事業の効果  
(工夫した点)

## ① 住民アンケートの実施

導入後にアンケートを複数回行い、利用状況の調査を行いました。

## ② 説明会等住民への周知

アプリの登録・閲覧方法について、市民センターだよりへの掲載や説明会を実施しました。

## ③ タブレット等必要機器の整備

スマホを持っていない人向けに、市民センターに閲覧コーナー(タブレット等)を設置しました。

## ④ 見守り機能の追加

独り暮らしの高齢者向けの見守り機能を追加しました。

## 補助内容

補助内容	●R3	●R4	●R5
補助額(千円)	309	240	150
事業費(千円)	309	328	226
補助率	10/10	3/4	2/3

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 写真・図



## 背景・目的

## 【背景】

阿品台地区の課題として、地域行事への参加者の固定化・関心の希薄化や、コミュニティ活動に関する地域内での情報送受信の不足などがありました。

## 【目的】

本事業を通じて、地域行事やコミュニティ活動情報を住民に広く且つ公平に発信することで、コミュニティ活動の理解を深め、満足度の向上を目指すとともに、住民の声を収集することで組織の見直しにつなげることを目的としました。

課題  
(苦労した点)

- ・アクセスユーザーの伸び悩み
- ・アプリのランニングコストに対する費用対効果
- ・情報発信者の固定化や一方通行の情報発信

現在の  
取組状況  
(今後の動き)

阿品台市民センターに紹介コーナー設置、使い方講習、市民センター便りによるPRなどの結果、一つの投稿当たり100~500人程度閲覧がありました。上記課題の観点から、残念ながらためまっぱはR7年度に閉鎖となりました。(R8.4月から9月まではためま(株)様のご厚意により無料で使わせていただきました。)今後はコミュニティのHPを中心に、地域活動の情報発信を行っていきたいと思います。

## この事業のキーパーソン!

阿品台コミュニティ 事務局長 國光さん

## ひとこと

『ためまっぱ阿品台には、保育園・小学校・中学校だより、市民センターだより、バス・電車・JR時刻表、さくらびあや社協情報などを掲載しており、最新情報が誰でも、いつでも、どこでも見れるメリットがありました。今までためまっぱ阿品台を利用していただいた方々にお礼申し上げます。』

## 地域の声

ためまっぱ利用者から

## ひとこと

『地域の方が運営されているので情報の安心感がありました。』『電子データなのでタイムリー且つ遡って見れるので知らなかった情報を得られたり、時刻表も更新してくれるので大変助かりました。』

# 大野第9区

# デジタル回覧版の導入

## 事業概要

コミュニティ内の情報伝達のデジタル化  
 ①集会所のWi-Fi・PC環境の整備  
 ②LINEグループの作成(無料)  
 ③一斉eメール回覧システムの導入(有料)  
 を進めました。

## 事業の効果 (工夫した点)

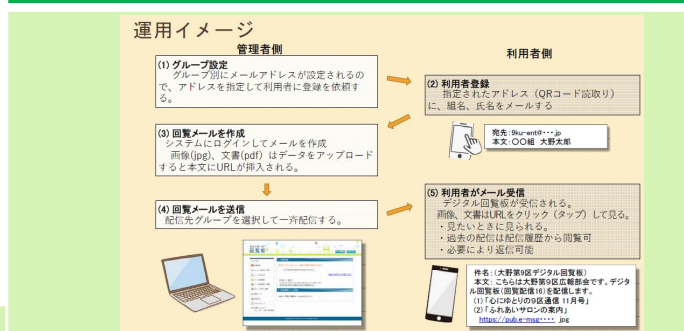


- ◎ 回覧の効率化、迅速化(区民負担の軽減)
- ◎ LINEによる区民間コミュニケーション増加(子育て世代や働く世代の区への参加促進)
- ◎ 災害発生時の安否確認等連絡網の確立

補助内容	●R3	●R4	-
補助額(千円)	242	86	-
事業費(千円)	243	138	-
補助率	10/10	3/4	-

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 写真・図



## 背景・目的

コミュニティの高齢化・担い手不足や回覧スピードが時代に合っていないことから、省力化や個々のライフスタイルの尊重といった住民ニーズに沿って、身近な道具や技術を活用することで手間の削減や次世代区民の参加を促すことを目的としました。

## 課題 (苦労した点)

- ・参加者数が増えていない
- ・費用対効果のバランス
- ・回覧作成作業負担(体制)のバランス

・eメッセージ回覧板の配信例



## 現在の取組状況 (今後の動き)

- ・R4年8月にデジタル回覧板(回覧配信1号)を配信以降、1~3回/月の頻度で配信し、R6年12月には(回覧配信103号)を配信し、今後も継続予定です。
- ・参加者数は世帯の2割弱ではあるが微増しつつあります。
- ・R7年11月の受信者アンケートでは「よく利用しており有益である」との回答を得ています。
- ・これまでメールのみだった配信システムがスマホアプリでの受信も対応可能となったため、スマホアプリの登録を促すPR活動を進め、若い受信参加者の登録数拡大を図ります。

## この事業のキーパーソン!

大野第9区 区長 三山さん

## ひとこと

『IT時代に沿ったコミュニケーションメディアを活用して、若い人に地域のコミュニティ情報を届け、区への参加を促せればと思います。』

## 地域の声

電子回覧版受信者のアンケートから

## ひとこと

『紙の回覧板は回る日数にバラツキがあり、遅い時は2週間になることもあり、WEBで事前に回覧板が見れるのは助かります。』  
 『普段は仕事をしており不在がちなので助かっています。』

## 原地区コミュニティ 推進協議会

# どろんこバレー大会開催

### 事業概要

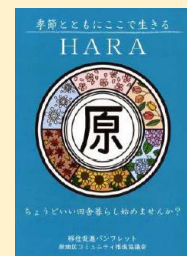
地域資源である田園風景を生かした「どろんこバレー大会」をイベント化、大会開催に合わせて地元特産品の販売や移住パンフレットの配布等行うことで、交流人口の増加・地域活性化を図りました。

### 事業の効果 (工夫した点)



- ◎ 開催当初は市内からの参加者のみでしたが、徐々に市外からの参加者も増え、原地区の認知度が上がってきていると感じています。
- ◎ R5からは地元有志による「はらっぱマルシェ」も同時開催し、地区内外から来場者を集めることができ、広く原地区の宣伝をすることができました。
- ◎ スタッフ全員のライングループを作り、会議の案内や会議録の報告などを行いました。
- ◎ 毎年、前年度の課題を整理し、よりスムーズに実施できるよう計画を作成・準備しました。

### 写真・図



補助内容	●R3	●R4	●R5
補助額(千円)	200	50	50
事業費(千円)	200	141	134
補助率	10/10	3/4	3/4

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

### 背景・目的

原地区ではH30年に住民アンケートを実施し、地域の現状把握から理想の形・課題の抽出による分析を行う中で、買い物や通勤・通学などに不便を感じる一方で、「地域への愛着は深く、将来的にも住み続けたい」という希望が多くありました。その中で、地域の特性を生かした恒例イベントを開催することで、原地区のファン・交流人口を増やし、最終的に移住定住の促進を図ることを目的としました。

### 課題 (苦労した点)

- ・スタッフの中には普段働いている若い世代もいることやコロナ禍ということもあり、ラインを活用して情報共有を行いました。
- ・スタッフが抜けることもありましたが、新メンバーを迎え全員でカバーすることができました。

### 現在の 取組状況 (今後の動き)

令和7年度も第4回大会を開催し、市外からの参加者含めて全12チームの申し込みがすぐ埋まるなど、原地区の地元の恒例イベントとして定着してきていると感じています。当日も「はらっぱマルシェ」の同時開催や子ども向けのどろんこ競技を行い、大いに盛り上がりました。来年度の開催はもちろん、原地区のファンや交流人口拡大・移住定住の促進に向けて、今後も開催を続けて行きたいと思えます。

### この事業のキーパーソン！

原地区どろんこバレー大会実行委員長 竹本さん

### ひとこと

『「原だからできる 原でないといできない」をスローガンに、令和8年度も第5回を開催できることを大変うれしく思います。地域の皆様の温かい応援と毎年楽しみにして下さる参加者の皆様のおかげで、参加チームも12から16チームに拡大します。泥にまみれて笑い合い、原地区の景観の良さ、地域のつながりを感じられるこのイベントが、これからも皆様にとって思い出深い時間となれば幸いです。』

### 地域の声

はらっぱマルシェ実行委員会 玉田さん

### ひとこと

『どろんこバレーとはらっぱマルシェの同時開催による相乗効果で、どちらもとても盛り上がっています。地域の行事とマルシェが混ざり合い、地域外の方に、自然豊かな原の良さを知ってもらえて、原のファンが増えていると思えます。』

## 四季が丘地区 コミュニティづくり協議会 (現:四季が丘自治連合会)

# 買い物サロン

### 事業概要

団地中心部の旧商業施設に移動販売車の乗り入れと合わせて、施設内の空き店舗を販売と住民交流スペースの買い物サロンとして活用するために、自分たちで改修し、団地内の買い物困窮者の救済や地域住民のつながりや居場所づくりに取り組みました。

### 事業の効果 (工夫した点)



◎ 地域の団体がそれぞれの役割を担うことで、事業にスムーズに取り組むことができました。  
 <役割>四季が丘地区コミュニティづくり協議会(当時):運営調整  
 地区社会福祉協議会:販売の手伝い等人的支援  
 不動産会社:安価な賃料での場の提供  
 スーパー:移動販売の乗り入れ

補助内容	●R3	-	-
補助額(千円)	300	-	-
事業費(千円)	418	-	-
補助率	3/4	-	-

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

### 写真・図



### 背景・目的

H24に団地唯一のスーパー撤退により、団地住民の高齢化に伴う「買い物困窮者」が増加し、住民同士の交流やエリアの価値の減少が課題となりました。一時はコンビニ誘致を試むも投資や事業継続の点から挫折する中で、関係団体が連携し、移動販売の実証実験をはじめることとなりました。さらにただ買い物をするだけでなく、サロンと一体となった住民同士の交流の場として、地域みんなで施設の改修を行うことで、より地域のつながりを深めることができました。

### 課題 (苦労した点)

コンビニ誘致を試みた際には、地域住民で賛助会員を募り、出資金を募集し多くのお金が集まりましたが、初期投資必要額には及ばなかったことからあえなく返金させてもらったということもありました。

### 現在の 取組状況 (今後の動き)

現在も2回/週(水・金)買い物サロンを開催しており、地域の交流の場となっています。令和7年7月には、県外の市議会さんが視察に来られるなど、活動が注目されていると感じています。引き続き、四季が丘地区の関係団体ができる範囲で協力しながら、地域「みんなで」快適な場に育てていきたいと思います。

### この事業のキーパーソン！

四季が丘地区社会福祉協議会 副会長(前会長) 向井さん

### ひとこと

『市社会福祉協議会と地元自治会の強い協力・支援があってこそ、この事業が始まり、継続しています。』

### 地域の声

四季が丘寿会(老人会) 窪田さん

### ひとこと

『団地内のスーパー撤退や運転免許返納による「買い物困窮者」にとって、移動スーパーの巡回はまさに救世主です。これからも感謝の気持ちで利用し、未永い継続を願っています。』

## 事業概要

旧玖島小学校を拠点として取り組んでいるマルシェやカフェなどのコミュニティ事業に当たって必要な機材を購入し、事業の継続・拡大を通して地域の活性化に取り組みました。

## 事業の効果 (工夫した点)



- ◎ 設備を導入することで、労働時間の短縮や人件費の削減による効率化を図ることができました。
- ◎ 余った野菜の再利用でフードロスを少なくすると同時に収益アップと、花咲く館や加工室の利用者増加につながる取り組みとして考えました。

## 補助内容

●R4

●R5

●R6

補助額(千円)

545

1,000

581

事業費(千円)

1,330

1,028

786

補助率

3/4

10/10

3/4

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 写真・図



## 背景・目的

住民アンケート結果をもとに、閉校になった旧玖島小学校を地域の活力づくりの拠点にしようとして、令和4年度から交流拠点施設「玖島花咲く館」で飲食店営業や野菜等の農作物販売をはじめましたが、利用客の増加によるスタッフの負担増加や農家からの加工品の販売要望も踏まえ、必要な機材を導入することで、事業の効率化・収益化向上を図りました。

## 課題 (苦労した点)

来館した農家や食品製造者からは問合せがありましたが、玖島花咲く館にどんなものがあり、どんなことができるか広く知られていなかったため、HPやSNSを使い周知広報を行いました。

## 現在の 取組状況 (今後の動き)

- ◎ 野菜乾燥機を活用し、マルシェ最終日に残った野菜や果物の乾燥を行い、マルシェで販売やカフェ、宅配弁当のメニューにも活用しています。
- ◎ フードロスの減少や、積極的な加工品増加にも繋がっており、今後は、加工所の貸し出しに備品の貸し出しを含め、広く食品加工を行ってもらえるよう整備していきます。
- ◎ 冷蔵庫や冷凍庫の導入により、食材や野菜、加工品の適切な温度管理が実現し、長期保管が出来るようになりました。
- ◎ 食洗機や給湯器など、運営に必要な設備が整備されることで、カフェでの提供時間短縮やスタッフの負担軽減に繋がりました。

## この事業のキーパーソン！

玖島地区コミュニティ推進協議会 事務局長 山崎さん

## ひとこと

『食品乾燥機によるマルシェの野菜や果物を活用した乾燥野菜や乾燥果物はフードロスの減少とマルシェで販売したりカフェや宅配弁当に活用することで、売り上げの増加に繋がっています。』

## 地域の声

カフェ玖島学園スタッフ 吉本さん

## ひとこと

『マルシェでは、干しリンゴや干し大根が人気で、店頭に並ぶとすぐ売り切れます。干し柿や柚子のピールなど、季節を感じる干し果物も人気です。カフェや宅配弁当では、干し椎茸を使ったちらし寿司や、干し茄子のお味噌汁が好評です。』

## 事業概要

地域の防災に関わる人向けの勉強会を開催し、防災知識の更新とフォローアップを図るとともに、住民向けの防災講座(防災キャンプ等含む)やチラシ等による防災知識の情報発信を行い、啓発活動を行いました。

事業の効果  
(工夫した点)

- ①既存地域行事(夏祭りやかき祭りなど)の活用:防災コーナーでの消火器やAED体験などを行うことで、子供たちなどに広く啓発活動を行いました。
- ②学校との連携:PTAや教職員とも連携し、小学校で避難訓練を実施しました。
- ③地元事業者との連携:自治会として地元事業者と緊急災害協定を締結し、避難訓練を実施することで、平時の関係を含めて、連携を深めることができました。
- ④女性防災士の活躍:防災活動への取り組みにおける女性視点での考えを取り入れることができました。

## 写真・図



補助内容	●R5	●R6	-
補助額(千円)	400	300	-
事業費(千円)	400	413	-
補助率	10/10	3/4	-

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 背景・目的

近年、線状降水帯をはじめとした豪雨災害や南海トラフ巨大地震への備えなど、自然災害に対する防災の取り組みが重要とされていますが、串戸地区では、自主防災への取り組みが不十分であり、住民の防災意識に差があることから、定期的な防災講座を例えば親子向けなど世代別に実施することで、共助の意識づくりや地域の防災力向上に取り組みました。

課題  
(苦労した点)

- ・事業のマンネリ化を防ぐための継続的な工夫
- ・地元の中・高校生や大学生にも防災活動に参加してもらえる体制づくり

現在の  
取組状況  
(今後の動き)

令和4年の自主防災会立ち上げから、防災士の人数も20人弱と大きく増えています。災害時に係る協定を締結し連携している地元の事業所も病院や福祉施設、スーパーなど広がっています。  
令和8年度からは、更なる組織体制の強化やデジタル化による若手世代との交流促進を図っていきたいと考えています。

## この事業のキーパーソン!

串戸地区自主防災会 会長 梶川さん

## ひとこと

『近年、町内会・PTA・子ども会等の組織率が低下傾向にある中、地域の安全・安心なまちづくりを目指す上で、地域の全住民を対象とする防災活動は地域の絆を深めていく極めて有効な手段だと思っています。』

## 地域の声

地域行事防災コーナー リーダー 稲葉さん

## ひとこと

『夏まつりやかき祭り、市民センター祭等地域の主な行事で防災コーナーを開き、水消火器やAED体験、防災クイズを行う等、子どもたちが興味関心を持つ工夫を行いました。そこで同伴する保護者への啓発活動も展開することが出来ました。』 10

# 阿品地区 コミュニティをすすめる会

# 防災士養成・防災活動

## 事業概要

各町内会で防災士を育成し、定期的な防災・減災会議の開催等を通して、阿品地区全体における防災活動の継続に向けて取り組みました。

## 事業の効果 (工夫した点)



- ◎ 阿品地区の防災士が一堂に集まることで、顔見知りとなり、有事の際を含めて今後の活動に役立てることができました。
- ◎ 地元のスーパーであるフジグランと災害発生時に避難所として使用できるよう連携することができました。

## 写真・図



補助内容	●R4	●R5	●R6
補助額(千円)	48	102	132
事業費(千円)	65	154	283
補助率	3/4	2/3	1/2

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 背景・目的

町内会長の任期が1年又は2年となっており、地域全体での防災活動の継承ができておらず、防災に対する知識不足や取組不足が課題となっていました。また防災士の資格取得後に活動ができていない人へのアプローチとして、AED操作方法や気象予報学などの復習の勉強会を実施することにしました。

## 課題 (苦労した点)

地区内の地理的な特性の違いや、防災に限らず各单位町内会単位での活動が主であるため、自主防災会も2丁目と4丁目のみでの活動となっています。そのため、1丁目と3丁目にも防災士の取得希望者等呼びかけを行ったが、なかなか進展しませんでした。

## 現在の 取組状況 (今後の動き)

阿品地区主防災会は設立以来、6年にわたり、役員の任期を延長して、スムーズな運営が出来ていない現状であり、令和8年度阿品地区コミュニティをすすめる会執行部の改選を機に、持続的な運営、運用する組織にすることを目指し、各町内会への説明や打ち合わせを重ねています。

## この事業のキーパーソン！

阿品地区コミュニティをすすめる会 顧問 谷野さん

## ひとこと

『防災対策は阿品地区全体の喫緊の課題であり、阿品地区自主防災会の位置づけを明確にし、円滑で持続的な運営と全町内会員の防災意識の強化を図っていきたいと考えています。』

## 地域の声

阿品地区自主防災会メンバーより

## ひとこと

『阿品地区自主防災会規約にも明記されているように、将来的には1~4丁目まで阿品地区全域の住民がまとまって活動できるようになったら良いと思っています。』

## 大野第2区

## 地区別避難体制整備

## 事業概要

地域ごとの実情に応じたきめ細やかなマニュアルを作成し、情宣活動や避難訓練をするとともに、避難経路標識の設置や避難時の呼びかけ体制づくりに取り組みました。

事業の効果  
(工夫した点)

- ◎ 地域の実情に合わせて、次の事業に取り組みました。
  - ・避難看板の設置(中山・更地・対敵山地区)
  - ・自主防災訓練の実施
  - ・要支援者及び障害者を対象の緊急避難対応名札作成
  - ・安否を知らせる「黄色いハンカチ」の要支援者への配布

## 補助内容

補助内容	●R3	●R4	●R5
補助額(千円)	228	160	120
事業費(千円)	418	292	264
補助率	3/4	2/3	1/2

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 写真・図



## 背景・目的

これまで2回/年避難訓練は行っていましたが、地域の実情に合っていないかたりマンネリ化が見られることから、2区全域ではなく各地域ごとのマニュアルを作り、地域ごとに情宣活動及び訓練を行うことで、南海トラフ巨大地震を想定した有事に備えられるよう取り組みました。

課題  
(苦労した点)

実際に災害が発生した時の、住民への確実な初動告知やいかに住民がこの体制を認識で実働できるかが今後の課題です。

現在の  
取組状況  
(今後の動き)

期首に各組長へ「要支援者」のフォローのお願いと「黄色いハンカチ」の説明をしています。防災訓練の時には各対象者を回って、黄色いハンカチの実施状況や安否確認、避難訓練を行っています。  
令和7年度の防災訓練は、大野東中学校にも参加の声かけを行い、住民や消防職員等あわせて101名が参加しました。防災訓練は、来年度以降も継続して実施予定です。

## この事業のキーパーソン！

大野第2区 区長 楠原さん

## ひとこと

『組長への役割分担がキーとなっており、現在40%の浸透率となっています。』

## 地域の声

大野第2区自主防災会 新宅さん

## ひとこと

『年々防災訓練を重ねることによって、区民への防災意識が高まればうれしいです。』



## 大野第1区

## 楽々キャブ拡大

## 事業概要

交通弱者・在宅福祉支援事業としてH28年度から実施している「楽々キャブ」について、アンケート調査や運転ボランティア養成講座等を実施することで、運転手等のボランティア人材の確保に取り組みました。

事業の効果  
(工夫した点)

- ◎ アンケート→講習・説明会→HPによる告知とステップを踏んで事業を進めることで、新たな運転手ボランティアを確保することができました。
- ◎ 区民の生の声としてアンケートを行ったことで、改めて楽々キャブに関する広報の必要性を感じることができました。

補助内容	●R3	●R4	-
補助額(千円)	500	375	-
事業費(千円)	523	501	-
補助率	10/10	3/4	-

(※)事業採択時の補助上限額となるため実際の補助率は異なる場合あり

## 写真・図



## 背景・目的

利用者から事業の継続と便数の増加やダブルトラックの要望がある中、運転手の高齢化や事故への心配(主に運転手やその家族)から運転手の減少が課題となっていました。まずは区民へのアンケート調査を行うことで問題点を抽出し、効果的な情報発信や住民への理解を進めることで、高齢者等の外出機会創出を図りました。

課題  
(苦労した点)

日産自動車の「地域貢献事業電気自動車3年間無料貸与プロジェクト」に応募、当選し2016年(H28年)4月から楽々キャブの運行を開始しましたが、運行10年目の2025年1月末に車両のミッションが破損して楽々キャブの運行が不可能になりました。代車を予算化していませんでしたので、運休して、5月の定期総会で代車購入の承認を受け、7月から運行を再開しました。EV車からガソリン車に変えたので、燃料費が高騰し、利用者の負担が増加しています。

現在の  
取組状況  
(今後の動き)

運転手募集が事業開始からの最重要課題で、75歳定年制を維持できないと楽々キャブ事業の再構築を検討します。運転手の募集が順調であれば、今後は車両のリース制度の利用を考えています。

## この事業のキーパーソン！

楽々キャブ事務局長 清田さん

## ひとこと

『どんなに凄い(誇らしい)ことを運営しているのか、「楽々キャブ運営会議」のメンバーの更なる理解を深め、利用者への案内文や回覧板などを通してボランティアのドライバーや利用者の増加を図るように努力していきたいと思います。』

## 地域の声

楽々キャブ利用者 河本さん

## ひとこと

『老後の日常生活で買物・通院・所用対応などで移動を強いられますが、その時は必ず楽々キャブのお世話になります。今やキャブ号は私達の救世主的存在です。』

## ① FAQ(よくある質問とその回答)

### ● 補助対象・期間について

Q:地域の有志による団体でも申請は可能ですか。

A:対象団体は市内28地区の地域自治組織のみとなります。

Q:既存の事業・行事で使用している備品の更新に補助金は使えますか。

A:新たに継続的に取り組むソフト事業が対象で、既存事業や備品購入のみを目的とした事業は対象外です。

※備品等ハード整備は、申請事業区分によって補助対象となるか異なりますので、ご相談ください。

Q:補助期間は2年間でも申請できますか？

A:事業に合わせて単年から最長3年まで申請可能です。  
(事業の進捗確認のため、フォローアップ相談会への参加をお願いします。)

### ● 他の補助金との関係について

Q:まちづくり交付金等、他の補助金との併用は可能ですか。

A:可能です。

### ● 事前相談会について

Q:事業の提案にあたって、事前相談会への参加は必須ですか。

A:必須ではありませんが、審査会に向けた事業の課題整理やブラッシュアップを図ることができる場としてぜひ活用してください。

### ● 審査会について

Q:不採択になった場合、次年度に再度提案することは可能ですか。

A:可能です。事業内容の見直しやブラッシュアップのため、事前相談会の再度の参加・活用も可能です。

### ● 連携先について

Q:事業に協力してくれる新たな連携先を探しています。

A:市へご相談ください。多様な主体がつながり、互いの資源を活かしながらまちづくりに取り組めるよう、地区の実情に応じた支援を行います。





**問合せ先** 事業の提案やご相談などお気軽にご連絡ください

- 地域振興課 地域振興係 0829-30-9137
- 佐伯支所 地域づくり係 0829-72-1112
- 吉和支所 地域づくり係 0829-77-2112
- 大野支所 地域づくり係 0829-30-2005
- 宮島支所 地域づくり係 0829-44-2000